

あい あい あい

2019年
12月号

あいこーププライベートブランド商品の価値を より多くの人に伝え広める活動を！

あいこープの設立理念は

とても単純明快、「子どもたちに、より安全で安心できる食品を食べさせたい、そして豊かな自然環境と持続可能な社会を残したい」という、母親や父親たちの自然な想いでした。そしてそれを実現する方法は、「自分たちの暮らしを見直し、よりよい商品を選択し購入する」という私たち組合員の基本的な行動でした。

私たちの「選ぶ」チカラは、一人一人は小さくとも、協同することで大きな力を生みます。大量生産大量消費、輸入食糧に頼りながら多くの食物を捨てている社会、命と環境を守る農林水産業を切り捨て、実体のないグローバル化を進める社会を変える力です。

その力の現れの一つが、私たちだけのプライベートブランド商品（PB商品）です。安全性を軽視した市販商品に対する

抗議の意思も込めて、志を同じくする生産者とともに、より安全で安心できるPB商品開発を実現させてきました。

産直たまごや、野菜果物の共同購入からスタートして、組合員の増加とともにPB商品の牛乳・ヨーグルト、豆腐や納豆、ハムにソーセージ、調味料や冷凍ギョウザ・シューマイなど、協同の力で、加工度の高い食品までも開発できるようになったのです。

現在52品目あるPB商品は、あいこープを代表するオリジナル商品です。あいこープの理念を体現するもので、
◆国産原料を積極的に使う
◆食品添加物に頼らない
◆環境に配慮する
◆生産者は地元近く組合員と活発に交流できること
など、さまざまな条件をクリアして開発されています。組合員と生産者の信頼によって生まれたPB商品には作り手と食べ手の愛情と情熱が

込められており、どれを取っても市販品とは明確な違いがあります。

常務理事 吉武悠里

そんな「他では買えない」価値あるPB商品たちが来春、新たなブランド「あいシテル」として新パッケージに生まれ変わります。今回、ブランドネーミングやロゴ選考のアンケートには多くの組合員の参加をいただき、特にロゴの決定には900名以上もの組合員が希望のデザインへ投票してくださいました。

PB商品の誕生ストーリーや価値を多くの方と共有し、改めて、まんま通信や組合員活動、営業広報活動を通じて、PB商品の利用拡大と新たな仲間づくりに取り組んでいきます。PB商品を積極的に利用することで協同の力を再確認し、より大きな力にしていきましょう。

i-coop miyagi original brand

商品画像はイメージです。



CONTENTS

- ▶ 産直米生産者と米作り … 2
- ▶ 台風被害緊急報告 … 4-5
- ▶ 東北が抱える原発の現実を学ぶ … 7
- ▶ 生産者が語るいっしょに歩んだ40年 … 3
- ▶ 環境学習会報告 … 6
- ▶ ていねいなくらし しめ縄 … 8



産直米生産者と一緒に米作りを体験しました！

四半世紀を超えて続く大郷みどり会との体験交流企画「田んぼに行こう」に加えて、今年は七郷みつば会とはさま自然村とも、米作りの体験交流企画が取り組まれました。それぞれ工夫を凝らした新しい挑戦に大勢の組合

員が参加し、生産者と一緒に米作りを体験しました。そして稔の秋。それぞれの田んぼで組合員が交流しながら育てた稲も収穫の時を迎えました。さあ、どんなお米が出来たかな？

30年以上の長い付き合いの七郷みつば会の田んぼで今年は、生産者と組合員、職員が一緒になって農薬不使用の米作りに挑戦する「トライ田んぼ」が企画されました。作る品種は「つや姫」です。

5月25日に20名余りの参加で田植えをおこないました。泥に足を取られ、どうか育つてくれます様にと植える事30分。あつという間に手植えは終了。田植え機のデモンストレーションもあり、機械植えの正確さと速さにびっくり。子供も大人も田植え機の試乗も出来楽しい時間でした。

7月13日にはむかつち博士こと農学博士の向井康夫先生をお招きして、子供達と田んぼの生き物調べと草取りをしました。しかし、楽しみにしていた秋の稲刈りは相次ぐ悪天候のために中止となり、みつば会の方にコンバインで収穫していただきました。12月にはトライ田んぼ収穫祭を開催し、新米試食と稲わらアートを行う予定です。無農薬で農作物を作る大変さを感じ、減農薬や有機米をいただく時は、一層感謝していただく心に刻んだ交流体験でした。

七郷みつば会と トライ田んぼ



11月3日(日)、はさま自然村との産地交流として取り組んだ「自宅で稲を育てよう！バケツ稲選手権」の最終日。6月にバケツに田んぼを作り、苗を植え、各家庭で大事に育て、いよいよ迎えた収穫です。

選手権参加の皆さんが刈り取った稲を持ち寄り、まずは見た目の品評。色や重さなど、違いがしっかりとありました。

脱穀は牛乳パック、コップ、割り箸、指を使って、淡々と作業すること約40分。やつと脱穀を終えて、次に籾摺りです。すり鉢に野球ボールを摺り合わせます。意外と籾がすれますが、籾と米の選別に一苦労。ここで登場、籾摺り機！あつと言う間に籾摺り完了です。「選手権」ということで、茎の数、籾の重量により、上位者には賞状と景品が進呈されました。1位の茎の数は90本、重量は126g(約2杯分のご飯が炊ける量でした)。

参加者からは「来年はもっとたくさん実るよう頑張りたい。」などの感想が寄せられました。約半年、お米の生育を通して交流できて、とても楽しかったです！

はさま自然村と バケツ稲選手権



大郷みどり会のご協力のもと、お米作りを経験する「田んぼに行こう!」。5月の田植え、7月のいきものしらべ、10月の稲刈りと計3回の交流を経て(6月の草とりは残念ながら雨で中止)今年も無事収穫を終えることができました。親子で行った手植え・手刈りは、機械化される以前はどれだけ大変な作業だったのか、身をもって体験する貴重な時間でした。大郷の「循環型農業」が食の安全と自然を守り、農産物を手間ひまかけて作っている様子も学ぶことができました。

交流田の稲刈り後に襲来した台風19号によって大郷町は甚大な被害を受け多くの田畑が冠水しました。交流田で収穫したお米も天日干し中に風雨にさらされた一部が失われたものの、今年も参加された方には収穫した無農薬ササニシキをお分けすることができます。12月初めに購入申し込み書を参加した皆さんにお届けします。是非田んぼでの時間を思い出しながらご家族で味わってくださいね！そしてお米たくさん食べてね！

大郷みどり会と 田んぼに行こう



40年 生産者が語る 40年 ずっと歩んだ 第十回

40周年を迎えるあいコープには、一緒に歩んできた生産者がたくさんいます。10回にわたり、そんな生産者の皆さんのお話を紹介します。



丹野商店/丹野徳雄さん

石巻市渡波に工場を構える。『紅鮭切身(山漬け)や』『銀たらミリン漬け』など、は根強い人気がある商品。

元々は仙台でサラリーマンをやっていた、子どもに良い食べ物を食べさせたいと共同購入会に入っていたんです。親父の後を継ぐことになり、その頃の一般的な加工食品は着色料とか色々な添加物を使う全盛期で、そういう食べ物には不自然だな、と思っていました。私が作っていた漬け魚(サンマのみりん干し)を仙台共同購入会(あいコープの前身)で扱ってもらおうと自分から商談に行きました。それ以来、商売の仕方はまるで素人だったけれど、とにかく人とは違う事をやろうと商品を作ってきました。そうしたら、仙台共同購入会の職員さんに『丹野さん』は組合員にとってブランドなんだって言われて、ものすごく自信を持ちました。

最近温暖化の影響もあって、魚が捕れなくなってきたり、原料魚が値上がりするし、これからは作りたくても作れない時が来るんじゃないかと不安です。魚屋さんは魚がないと仕事できないんだよね。震災もあって、本当にやりきれないこともあるけれど、多分あいコープと付き合いがなかったらとくに辞めてると思います。商売って、人と人の付き合いなんだよね。ビジネスとはまたちよつと違う。あいコープの組合員さんは、もつと『自分たちの生協なんだ』という意識を持ってほしいな。あいコープは他の生協とはだいぶ違う。経営陣の世代交代があって、これからどんどん経験を積んでいくんだろうけど、その特徴ある生協を、今後にどう伝えて行くのか、たくさん考えてください。仲良くすることだけがいいとは思わないし、目的が同じなら、ぶつかり合ってもいいんじゃないかな。

* * * 丹野 徳雄

職人気質の世界は「技は盗むもの、自ら見つけるもの」。常に自分で考えて乗り越えてきた丹野さん。今は自力でどうにかする時代ではないかもしれないけれど、その心意気を保ち続けたい、と感じました。編集部

10/7 コアサイクル上期報告会



2019年度、あいコープ職員の人材育成を目的とした「コアサイクル活動(産地交流やグループ学習を通じて、総合的な成長)」の上期報告会が行われました。

職員チームが学ぶテーマは「まるしょう(お料理キット)」「パン工房わ・は・わ(パン)」「鎌田醤油(味噌)」「タンポポ村(ウインナー)」「天童果実同志会(りんご)」「七郷みづば会(農産)」「大郷みどり会(農産)」の七つです。

報告会では、コアお料理キットチームでは現場での製造体験やまるしょうの佐々木社長が配達に同乗し組合員との交流、コアパンチームでは組合員が求めているパンの調査を行い商品化に向



食品工場で製造体験

けた試作、コア天童チームでは現地で実際に摘果作業や収穫作業の体験が報告されました。

コアサイクル活動は職員が学ぶだけではなく組合員の皆さんへ商品の魅力を伝えることを目標にしています。その活動も各チームで様々。コア七郷チームでは、座学で学んだことや田植え作業の様子をブログで発信。コアお料理キットチームでは「まんま通信表紙」で職員や組合員のオススメコメントの掲載を行い、10月4回の紙面では過去最高の注文数をいただきました。

誰かに言われてやるのではなく、自分たちでアイデアを生み出す発想力を身に付け、下期も生産者と商品の魅力を組合員に発信できるよう、私たちはコアサイクル活動に取り組みます。

商品部商品課長 播磨賢次

台風 15 号・19 号等被害関連緊急報告

人と人のつながりで復旧を成し遂げよう

9 月に発生した台風 15 号に引き続き 10 月には 19 号が日本列島を直撃、更に 21 号までもが大雨をもたらし、各地に甚大な影響を及ぼしました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、組合員の皆さまには、商品お届けが滞り、大変ご迷惑とご心配をおかけいたしました。ご存知のように東日本を中心に各地で被害が相次ぎ、私たちの産直産地や各取引先、そしてあいコープみやぎ日の出町センター自体も冠水するなど大変な被害となりました。しかし、発災直後から、様々なつながりを通じて助け合いが生まれています。掲載しきれないほどの出来事がありますが、主だった経緯をご報告いたします。まだまだ被災地の復旧には時間を要しますが、それぞれ力になれることを考え、支え合いながら復旧を成し遂げていきましょう。

11/7、大郷みどり会へ一次支援金として
500 万円を進呈
(組合員と共生会からの支援金)



左から吉武常務/高橋理事長/
郷右近代表(大郷みどり会)/高橋専務

被災産地等への支援金一覧 (単位万円)

台風 15 号	台風 15 号	台風 19 号
丸エビ倶楽部	丸和食品	丸エビ倶楽部
10	5	20
茨城 BM	ATJ	茨城 BM
10	3	10
ワキュウトレーディング	千葉産直サービス	はさま自然村
10	3	10
ランカスター	リアス	七郷みつば会
10	3	10
八千代産直	パルシステム千葉	小牛田 佐々木
5	10	10
あゆみの会	パルシステム茨城栃木	丹野商店
5	5	10
		丸山食肉センター
		5

上記支援金は被災地支援準備金から拠出いたしました。

台風 19 号被災以降の主なできごと

十月十三日(日)



水の掻き出し 事務所フロア



水没したセンター

1m弱の高さまで冠水、電話や FAX、インターネット回線などの通信手段がダウン、配送トラック 5 台と乗用車 8 台が水没により使用できない状態に。セットセンター仕分けラインも水没し商品供給システムが停止。



浸水により崩れた商品の箱

十月十四日(月)



月曜コースの方に日配品青果等 70 品目(冷凍品を除く)を組合員も参加して手作業で仕分けお届け。通常は約 1000 品目を供給している

十月十七日(木)



友好団体(生協 NW21)会員のみなさん



パルシステムから提供されたトラック



友好生協が支援のために来協(パルシステム/生協 NW21 の会員 3 団体)。トラック、営業車の提供を受ける。セットセンターを洗浄、電解水で除菌。浸水商品の仕分けではカゴ車 40 台分を廃棄、30 台分をフードバンク等に提供

十月十八日(金)



各生協のボランティアスタッフが浸水した事務フロアタイルを洗浄。NPO とうほく食育実践協会からボランティアのための炊き出し支援を受ける。孤立した丸森町筆甫地区へ支援物資を届ける。



十月十五日(火)



西塚夫妻 冠水した田んぼの前で



柏州地区にあるわ・は・わ大郷

商品部職員が大郷みどり会(大郷)、七郷みつば会(仙台)等を視察。大郷みどり会では生産者の自宅 1 軒が吉田川決壊の濁流直撃で全壊したほか、ビニールハウスや田んぼも甚大な被害を受けた。商品供給では冷蔵冷凍セットラインは復旧したものの、ドライ品 50 品目は手作業仕分け。



高橋徳治商店・高橋利彰さんによる炊き出し。寒い中セットセンター復旧に尽力する現場スタッフにおでんを振る舞ってくださった。

十月十六日(水)

ドライ品の仕分けラインが復旧し、木曜コースの方から通常仕分け再開



十月二十一日(月)

大郷みどり会の現地ボランティア開始。同時に募金呼びかけを始める。日の出町センター 1F 事務フロアの床タイル 600 枚を貼り、仮設営ではあるものの、復旧が進む。

十月二十三日(水)



被災宅で片付け手伝い @大郷

被災組合員宅へお見舞い訪問。大郷町役場へ支援物資を届ける。



十月二十四日(木)



ビニールハウス解体 @大郷

11/2 まで連日、組合員、職員、生産者たちによるボランティア活動が続いた。

十月二十七日(土)



週末は主に職員がボランティアに入った。

10/31 ジル＝エリック・セラリーニ教授 講演会報告

遺伝子組み換えトウモロコシと除草剤ラウンドアップの危険性を長期にわたる動物実験で立証した、ジル＝エリック・セラリーニ教授(仏カーン大学)が来日し、10 月 31 日に東京ウイメンズプラザで講演を行いました。主な内容は、ラウンドアップは『有効成分』と表示されているグリホサート以外の成分の方が毒性が強く問題である、という事でした。それは石油を原料とした製品生産の際に発生する汚染物質で、農薬としての使用が禁止されていると素まで検出されたそうです。オーガニック食材で五感をフルに活用させた味覚の追及をするシェフ/ジェローム・ドゥーズレ氏と共に、『地元の生産者とのつながりの中で安全な食材を作り育て、買う事のできるネットワークを確立すること』が、有害物質を体に取り込まないために大事なことだ、と語りました。



9/3 沖縄 宮古島のいま 講演会開催報告

9 月 3 日、「沖縄 宮古島のいま」と題して、エルパーク仙台で坂口聖子氏による講演会が行われ、111 名が参加しました。沖縄県南西諸島では自衛隊基地配備計画が進められています。宮古島では、島民に説明が十分されないまま設備の建設が進んでおり、サンゴ礁できている宮古島は山も川もないため、島民は雨水が琉球石灰岩で濾過されてできた地下水を活用(農業用水も含む)して暮らしています。海は東洋一美しいと言われ、生物多様性が豊かに息づく島ですが、800 人の自衛官とその家族が移住する計画があります。基地問題は、安全保障・改憲・民主主義と人権尊重に関わる問題です。「水」「命」「生活文化」を大切にする意味でも日本全体の問題なのに私たちが知らないではまずないと沖縄との距離を近く感じる講演会になりました。



講演する坂口聖子氏

わだいの
たねまき



一人ひとりが当事者のマイクロプラ問題

石けん環境委員会では環境学習会として、今年も東京農工大学農学部教授の高田秀重先生をお招きし、「公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)」、「広瀬川1万人プロジェクト」との共催で「プラスチックの海洋汚染削減セミナー」を開催しました。

高田先生の講演ではプラスチックと地球温暖化の関係、マイクロプラスチックが与える生態系への影響、今世界で起っているプラスチックの問題や取り組み等、幅広くお話しして頂きました。その中の、日本では九州や沖縄の海に流れ着いているプラスチックごみがアジアから流れてきているかのように報道されているが、日本語が書かれたプラスチックもハワイやアメリカまで流れ着いていて、「誰もが被害者で誰もが加害者である。当事者であることを認識すべき。」とおっしゃられた高田先生の言葉が印象的でした。

柔軟剤の香りを長持ちさせる香料入りマイクロカプセルが空気中で破裂し、微細なプラスチックがばらまかれている状態だということも教えて頂きました。

次に、七ヶ浜の菖蒲田海岸に移動し、実際にマイクロプラスチックを探しました。広い砂浜から直径5mmのものを探すのは大変かと思いましたが、あまりに簡単に、そして次々と見つかるプラスチック片に驚き、海洋汚染の深刻さを目の当たりにしました。

まずはプラスチックを身の回りから減らすということに気をつけるとともに、この事に興味のない方にどのように広めていくかも考えなければならなと思った学習会でした。

石けん環境委員会
佐藤あきな

浜に漂着したゴミで袋もいっぱい



まんま通信のあるくらし

削り節の奥深さに脱帽！

我が家の和食づくりを支えるまんま食品

昨年、高橋徳治商店のおでんセットにまんま食品のだしパックを添付した「もつと！欲ばりおでん」の開発と一緒に行ったご縁もあり、9月7日、名取市にあるまんまご食品工場を訪問しました。

削り節のいい香りが漂う工場内を社長の濱口利一さん、専務の濱口利文さんに案内していただき、原料のかつお節を削る前に柔らかくする蒸し器や、削る厚さに応じて刃を変える削り機、さらに削り節を乾燥させてから冷却させる機械などを順番に見学しました。特に削りの工程はその用途ごとに微妙に厚さを変える必要があるとの事。また、だしパックに使用する原料の比率もどんな香りや味わいの出汁を取るかで変わってくるそうです。一言に削り節といってもその奥深さに脱帽！近年は原料になる魚が不足

し値段も高騰しているそうですが、品質の良い原料にこだわって仕入れを行っているそう。日本食の伝統を支えているまんまさんの商品は本格的な出汁用削り節や手軽なのに絶品出汁が取れるだしパック、そのまま使えるソフトかつお節など我が家の和食作りに欠かせない存在です。今後でも利用することで応援していきたいと思っています。

青葉B地区担当理事
安部有理

理事会議事録抄

2019年11月5日(火)

▼上期事業総括と今後の見通しについて報告を承認した▼台風19号による生産者の被災状況と生協による支援活動について報告を承認した

▼大郷町の水害により刈取り前に冠水した「有機米」の認証変更について報告を承認した▼PB商品パッケージのレギュレーションを決定した▼2月組合員交流会企画書を承認した▼脱原発ネシフ委員会企画大島堅一氏講演会企画書を承認した▼40周年記念式典の振り返りを行った。

組織概要

(2019年10月分)

【組合員数】	13,391名
【供給高】	209,429千円
【一人実利用高】	5,095円/週
【出資金】	1,155,800千円



●廻に興味はあったのですが、料理になかなか手が出せずにいました。今回はたくさんの知識を学ばせて頂き手軽に廻作りができることも分かり早速自分でも作ってみようという気になりました。(発酵食品学習会アンケートより)

東北が抱える原発の現実を学ぶ

11月7日、日立システムズホールで行われた内容盛りだくさんの学習会に38名が参加しました。

まず、5月に行われた青森県の核関連施設視察ツアーに参加した脱原発委員から、見てきたもの、感じたことを報告です。「反核燃の日 全国集会」への参加を皮切りに行われた2泊3日のツアー。登壇した委員から六ヶ所再処理工場や、原子力船むつの原子炉を展示してある施設など内容の報告があり、貴重な話を参加者と共有しました。

旅の最後に訪れた、大間原発敷地内で土地を売らずに反対運動を静かに強く続けている「あさこはうす」についても、それぞれの想いを語り、離れている私たちに応援できることは何かを考える機会ともなりました。続いて、あいコープみやぎ顧問の多々良哲氏より、女川原発の現状について解説頂きました。



女川原発の歴史と現在の問題を学ぶ



5名の組合員が登壇
ツアー内容を報告した

建設当時、女川の人々がどんなに反対していたか、運動の様子も見て頂きました。時は流れ東日本大震災が起き、福島原発は事故に。一方、過酷事故を起こさなかった女川原発は安全な原発なのでしょいか？多々良さんからは、女川原発がどれだけ危険な状況で、間一髪で助かったか、そしてどれだけの傷を負った被災原発であるかをお話いただき、参加者からは「こんなに危なかったとは知らなかった」「震災で被災した危ない原発であると初めて知った」という感想が寄せられました。

安全審査が事実上終了し、GOサインを待つばかりのように思えてしまう女川原発ですが、私たちは諦めることなく、今後も再稼働の是非を決める県議会を注視し、パブリックコメントなどで可能な限り関わることで再稼働を阻止する行動が必要だと再認識しました。

理事 鈴木真奈美

編集後記

10月の連続した台風の襲来によるあいコープと生産者の被災状況と復旧の取組みの一端を見聞き特集でお伝えしました。この災害をもたらしただけが海水温の上昇にあることは日本のメディアでも取り上げられています。が、正面から地球温暖化問題として論じられることは少ないように思えます。持続可能な第一次産業や食の自給と安全は、気候正義の問題と切り離して考えられない時代になったのでしょうか。生産の仕方、経済の在り方を変えていくことがますます切実になっていきます。

組織運営室 豊嶋 馨

私のオススメ商品 サラダえび開きタイプ



今回おすすめさせていただく商品は、冷凍“サラダえび開きタイプ”です。そもそも自分自身がえび好きということもあります

が…。サラダえび開きタイプは、使い勝手もよく、冷やし中華やサラダなど様々な料理に合います。でも一番のおすすめは、温かいごはんにごはんが見えないくらいいいつばいのせて食べるのがおすすめです。ぜひお試しください。

事業部 安達 繁樹

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、
配送もしくはFAX (022-284-6973) にて、
あいコープみやぎ理事会広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つぶやき』也大募集中！

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2019年9月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	47件	利用延べ人数	47名
集団託児	26件		
慶弔・出産	5件	◆ケア時間	
電話相談窓口	5件		200.5時間
計	83件		

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



022-284-7277 平日 9:00～17:00

12/10(火)・・・**年金相談** 社会保険労務士 清野道子氏
13:30～15:30

12/10(火)・・・**法律相談** 弁護士 倉林千枝子氏
13:30～15:30

12/16(月)・・・**思春期相談** 臨床心理士・スクールカウンセラー 北條貴子氏
9:30～11:30

12/17(火)・・・**子ども相談** 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
10:00～12:00

***介護相談** ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏
相談希望日をうかがいます。

▼各相談窓口前週の日曜日まで予約して下さい。随時受け付け可能です。▼
予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

●体のつまりがよくなりました。負担なく、動かせて気持ち良かったです。これから“ロコモ予防”大事だと思いました。(ロコモ予防ヨガ体験参加者アンケートより)

ていねいなくらし

手をかけて、気持ちを込めて
時間をかけて作り上げる幸せ。
丁寧に暮らす贅沢をご一緒に。

その十三、しめなわ（輪飾り）



場を清め神様を迎える輪飾り
農家では農機具や
井戸端にも飾ります



笠松さん(右)に
手ほどきを受け
輪飾りを作りました

お正月を迎えるために玄関や各部屋に飾るしめ飾り。その昔は暮れに一家の家長が身を清め、障子を締め切った部屋で黙々と作ったという輪飾りですが、今では外国産の稲わらで大量生産されたものが安価で販売されています。単なるインテリアではなく、お正月の神様をお迎えするという『厳かで意味のある飾り』。一年の恵み(豊作)に感謝し、新年への願いを込めるお正月飾りですから、原料の稲わらも国産を選びたいですね。

古式ゆかしく自分で作るのも素敵！と、七郷クローバーズファームご協力のもと、あいあいあい編集部が地域のベテラン主婦・笠松まき江さんに指導を受けてきました！

(※意味合いや飾り方には地域によって違いがあります)

輪飾り作りの手順



干した稲わらを叩いて
柔らかくする(藁ぶち)。
少し湿らせると扱い易い。



縄を縛って(ロープのようにねじって)いく。
途中3か所に房(垂れ下がる長い部分)を
編み込みながら一本の縄にする。



おしまいの部分を
縄のはじめの部分にねじ込み、
輪にして形を整え完成。



初心者でもできた！

開始から1時間で8本の輪飾りが完成。
不揃いでも不格好でも、これぞ手作りの味。
良いお正月が迎えられそう。

Calendar *今後のイベント*

12/10(火)

ジョイケア企画
「じゃれつき遊び」カフェ

場所/ 泉区桂市民センター 和室1
時間/ 10:00~12:00

12/14(土)

七郷無農薬田んぼヘトライ！
【収穫祭】

場所/ 七郷無農薬田んぼ
時間/ 10:00~12:00

12/11(水)

ジョイケア年金セミナー
あなたの老後資金、いくら必要？

場所/ 日立システムズホール仙台 エッグホール
時間/ 10:00~12:00

2020 1/24(金)

脱原エネシフ委員会
大島堅一氏 講演会
「本当の原発のコスト」

場所/ 日立システムズホール仙台 エッグホール
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

地区委員さん募集中！
一定例会見学も受付中ー

地区委員会は

楽しい！
おいしい！
学べる！！

あいこープの仲間だから
本音トークができます。

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当:組織運営室長 豊嶋)

